

総合科学教育研究センター

ニュースレター

【新任教員紹介】 本多 創史 教授



2019年4月に、新学部生命倫理学の担当者として着任いたしました本多創史（ほんだそうし）と申します。3月までいわき市の東日本国際大学健康福祉学部社会福祉学科に所属しておりました。専門分野は思想史で、関連分野は近代史、障害学などです。

これまで私は、「異常」とみなされた人々がどのように処遇されてきたのか、それは社会編制とどのような関係にあるのかといった観点から、いくつかの仕事をしてきました。いま冷静に考えてみれば90年代後半の手話ブームの影響を受けたのでしょうか、取り掛かりとして、聴覚障害者がどのように表象されてきたのか、明治以降の雑誌や国立学校の教員の言説などを素材に、検討することから始めました。史料を丹念に追っていくと、聴覚に障害があるが一人の人間であることに変わりはないといった当代でも通用しそうな正論がある一方で、不気味だとか化け物などと言われたという証言もあって、さまざまな語り方がされていたことがよくわかります。しかし、こうしたバラバラだった語られ方も、ある統一した像＝イメージが立ち上げられ社会に浸透していくなかで、緩やかにそこに収斂していったよう

に見えます。1920年代後半以降、耳は聞こえないが脳の言語中枢機能と発声発語器官は正常であるという、今ではありふれた聾者のイメージが急速に流通するようになると、それなら音声言語を習得できるのではないかと、手話を禁止して口だけで話をさせようとする時代が到来します。ラジオという新しいメディアの登場も一役買いました。また、近代日本には、東京語に彫琢を施して「国語」を創出したという歴史があり、口で話すことは「国語」を話す一人前の「国民」であることの証明にもなりました。良いこと尽くめのように見えるかもしれませんが、聴覚障害者にとって口話とは、健聴者が完全防音のガラスケースに入れられ、その外側で話される一度も聞いたことがない外国語を口の形だけから学ぶのに等しいと言われるほど、困難を極めます。やがて、口話は一見するほど良い方法ではないことがわかってくるのですが、手話が独自の文法と音韻構造を備えた独立した言語であると認知されるまでにはさらに長い時間を要しました。この事例からお分かりになるとおり、私は、当事者を置き去りにしたまま他者によって表象されてしまうと、どのような事態（暴力）が起こるのかを明らかにする仕事をしてきました。現在は、日本と欧米の優生学の比較検討を通じて、他者の身体に対する感覚がどのようなものであったのかを明らかにしようと努力しています。

簡単ではありますが、以上をもって、着任のご挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

(人文社会科学系領域・本多 創史)■

【新任教員紹介】安田 尚子 教授



7月に着任した安田尚子（やすたかこ）と申します。新医療系学部の英語、言語学の授業を担当します。専門は言語学、第二言語・外国語としての英語教育で、特に第二言語ライティングと第二言語音韻論に興味があります。大学院時代は日本語話者の発音や聴覚パターンを中心に第二言語音韻論を研究していましたが、現在は第二言語ライティングの研究をメインに力を入れています。具体的にはマンガのフォーマットやビジュアル言語を用いたライティングの指導、キャラクター言語（役割語）の分析を応用した社会貢献型 **project-based language learning** のライティングへの効果について研究をしています。それ以外に第二言語音韻論の分野ではロシアの研究者グループと英語のイントネーション学習アプリの開発を行なっています。また、アメリカの研究者とともに理系女子に対するイメージについての研究をしています（一見全く専門外のようにですが、ステレオタイプの研究という意味でマンガと関連しています）。

今までの教員生活において、入試が終わって英語学習にモチベーションを失った学生を対象にい

かに効果的な英語の指導をするか、ということは最大の課題でした。外国語を学ぶ目的は、どのような動機であれ最終的には人と人とのコミュニケーションにつながっています。したがって学生がテストや単位取得ではなく、コミュニケーションを学習動機として視野に入れることができるアプローチが重要と考えます。コミュニケーションにおいては文法や語彙力だけではなく、言葉が与える印象や社会言語的要素の理解、視覚情報の活用、瞬時の状況判断力と応用力など、総合的なスキルが求められています。マンガは単なる娯楽要素の強い教材ではなく、そのフォーマットやスタイル、言語学的特徴は多角的に言語教育で活用される可能性を秘めており、総合的なコミュニケーションとアカデミックスキルを身につけるために活用することができます。そんなマンガが持つ可能性と魅力について様々な角度から研究しています。

本職以外ではテコンドーの国際師範の資格を持っていますので、いずれ課外で護身術など教える機会があればと思います。初心者レベルですがボディボード、フラ、バレエも好きで、今年は熊川哲也のバレエカンパニーの公演で散財しております。遊びでも研究でもチャレンジすることで日々実感していることですが “All fixed set patterns are incapable of adaptability or pliability. The truth is outside of all fixed patterns.” という Bruce Lee の言葉どおり、人生も英語教育も「型破り」であってこそ真のゴールにつながるのではと思っています。

(人文社会科学系領域・安田 尚子)■

[学術学会等行事カレンダー]

月	日	学会・討論会
11	9-10	日本英語学会第37回大会（関西学院大学）
	16-17	日本語学会第159回大会（名古屋学院大学）
	26	第48回生薬分析シンポジウム（京都大学）
	28-30	第37回メディスナルケミストリーシンポジウム（八王子）
12	5-7	第46回有機典型元素化学討論会（松山）
	7-8	第31回日本生命倫理学会年次大会（東北大学） 日本国際保健医療学会第32回学術大会（三重）
1	24-25	第10回武田科学振興財団薬科学シンポジウム（武田薬品研修所）

月	日	学会・討論会
2	20-21	日本疫学会第30回総会（京都）
	21	日本薬剤学会物性FGセミナー2019（東京）
3	16-19	日本物理学会第75回年次大会（名古屋大学）
	16-19	日本化学会第100回年会（野田）
	25-28	日本薬学会第140回年会（京都） 日本農芸化学会2020（九州大学）
4		

[コラム] 教養としての周期律表：塩素（Cl）

今回は、塩素について紹介します。

塩素は、日常生活において、私たちに一番かかわりの多いハロゲンの一つである。海水、防虫剤、消毒、ポリ塩化ビニルなど、ありとあらゆるところに塩素を含む化合物が転がっている。

さて、塩素という元素が初めて人類により認知されるようになったのは、1774年、カール・ヴィルヘルム・シェーレらが塩酸と二酸化マンガンの反応から発生する塩素ガスを見いだしたときからである。

現在では、塩化ナトリウム水溶液の電気分解により、水酸化ナトリウムと共に工業的に大量に生産されている。

さて、この塩素は、生物にとって大いに影響のある元素である。特にその毒性が利点でもあり欠点でもある。

例えば、塩素ガスは、第一次世界大戦で最初の毒ガス兵器と用いられ、ドイツ軍が放出することにより甚大な被害をもたらした。

加えて、家庭でよく見かける次亜塩素酸ナトリウムも毒性はあるが、その漂白、酸化、殺菌作用があるために盛んに利用されており、現代生活の衛生状態を維持するためには大変重要である。

これら以外にも、塩素を含む化合物は、塩酸、クロロホルム、パラジクロロベンゼン（防虫剤）や合成樹脂の原料など、様々な化合物が様々な用途で使われており、非常に多岐に渡って重要な元素である。

（自然科学領域・谷口 暢一）■